

## 02

話題提供者  
福岡県立須恵高校  
教諭  
深江一美

ふかえ・かずみ 教職歴16年。同校に赴任して1年目。国語科。須恵高校は、福岡県教育センターが推進する「新たな学びプロジェクト」の研究実践校として、ICTの活用を通じた主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善に取り組む。深江先生は、同校の「新たな学び・ICTチーム」を務める。  
\*同校のオンライン授業の取り組みは、『VIEW21』高校版6月号の特集(P.16～19)で紹介されている。

## 「協働」がより求められるオンライン授業

学習者が自身の学びの手応えを確認する「間」が少なくなりがちなオンライン授業を、どうしたら改善することができるのか——新型コロナウイルスの感染拡大による臨時休業の中、いち早くオンライン授業を導入した公立高校の先生に、試行錯誤の日々と今後の展望について聞きました。

## オンライン授業での「授業の合間」の孤独

先日、国立大学の医学部で学ぶ教え子が、「オンライン授業は、対面の授業よりもついていくのが大変です」と、私に話してくれました。高校時代は、授業を聞けばよい成績を収められるような生徒でしたから、なぜそんなに大変なのか詳しく尋ねたところ、「授業の後に、友達とその日のポイントや分からなかったところを確認することができないのがつらいんです」とのことでした。対面の授業が行われていた時は、授業と授業の間には休み時間があり、すぐそばには、学んだ内容について話ができる仲間がいた。しかし、オンライン授業では、授業が終わり、オンライン会議ツールの使用を終了すると、そこにいるのは自分だけ……。

「分からないことがあったら、メール機能を使って質問できるのですが、学習内容が多く、進度も速いので、気軽に質問することは難しいんです」と、教え子は困っていました。教師による説明の時間が多いオンライン授業で授業内容の理解に苦勞するのは、高校生も大学生も同じです。だからこそ、「オンライン授業では、生徒同士が学習したことについて語る時間が必要」という意見(本テーマの第1回「オンライン授業における『学びの燃料』」より)は、その通りだと、私も思います。

## チーム・ティーチングで画面の向こうの生徒を支援

私が勤務する福岡県立須恵高校は、5月中旬から分散登校での授業が再開し、今は臨時休業前の授業形態に戻っています。しかし、今後また新型コロナウイルスの感染が拡大し、再び休業になる恐れがある以上は、オンライン授業をよりよいものにするための努力を続ける必要があります。

私たちが試行錯誤している最中ですが、実際にオンライン授業をしてみて気がついたことがたくさんあります。例えば、授業内容を理解できているのか、集中して聞いているのか、そうした点での生徒の実態がとてつかみにくいということも、その1つです。同じ空間を共有して行う対面授業では、説明を聞く際の視線や身体の動き、教師の問いかけに対する返事などで、生徒の理解度はある程度判断できます。しかし、オンライン授業では、パソコンを操作し、説明をしながら、画面を通して生徒一人ひとりの様子を把握することは困難です。もちろん、授業中に「質問はありますか?」と何度も尋ねるようにはしていますが、オンライン授業という特殊な環境で、生徒も「ささいな疑問で授業を止めては悪い」と教師に気を使うのか、対面授業よりも質問は少ない気がします。そうした状況を打開する方策として、私が大きな可能性を感じている取り組みの1つが、国語のオンライン授業で行っているチーム・ティーチング(TT)です。若手の先生がパソコンの操作や説明を行い、私は授業中の様子を観察して気になった生徒にチャット機能を使って声をかけたり、生徒からの質問に答えたりするという役割分担でTTを行いました。生徒一人ひとりの様子を見取り、理解を促す問いをその場で投げかける役割を置くことで、知識の伝達に偏らない授業、学んだことをその場で語り合える授業になっていくと、手応えを感じました。

## オンライン授業のTTから協働的な授業改善へ

TTで、授業者と学習者の両方を丁寧に観察したことにより、様々な気づきをえました。一番の気づきは、オンライン授業では、画面と教師の説明に集中するあまり、教科書やノートを見るべき時にそれらの方に視線が動いていない生徒が多いということです。授業後、私は授業者の先生と、「教科書を見る」「ノートを取る」などの指示はもっと明確に出していこうなどと、改善方法を話し合いました。そうして臨んだ次の授業では、生徒の視線が画面→手元→画面……と、活発に行き来するようになったのです。

対面授業においても、互見授業などを通じた教師間での授業改善は重要ですが、試行錯誤の部分がまだ多いオンライン授業では、教師集団での協働的な授業改善が求められます。そして、チャレンジを始めたばかりのオンライン授業だからこそ、教師同士が抵抗感なくお互いの授業を見合うことができ、それをきっかけに対面授業においても、もっと気軽に授業を見合えるようになる……そんなふうに、私たちの授業改善がさらに進めばよいと思っています。

## 安心して気づきや疑問を語り合えるオンライン授業を、生徒とともに創る

TTは、オンライン授業における授業改善に有効だと思います。しかし、複数の教師がかかわるTTを頻繁に実施することは難しいでしょう。私は、ここ数年の対面授業がそうであったように、オンライン授業においても、生徒の力を借りながら、生徒主体の授業ができないかと考えています。本校には各クラスに、「国語係」「数学係」など、教師の授業準備を手伝う係の生徒が教科ごとにいます。その生徒が、担当の教科の授業を進行し、教師はチャット機能などを使って生徒に問いを投げかけ、分かったこと、疑問に感じていることを引き出す役割に徹するのにも一案です。そのように、既に対面授業で私たちが行っていた主体的・対話的で深い学びは、工夫次第でオンライン授業でも実現できるはずですが、気づきや疑問を語り合える授業は、対面授業でなければできないというのではなく、「ここでは安心して話せる」と生徒が思える場づくりができれば、オンライン授業でも実現可能なものです。時には生徒に授業の主導権を預けながら、生徒同士が安心して学べる授業を、オンライン上でも追究していきたいと思っています。